

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 15 No.23 2013年12月15日号

問い合わせ：cnar@cnar.jp 読者登録：<http://cnar.jp>

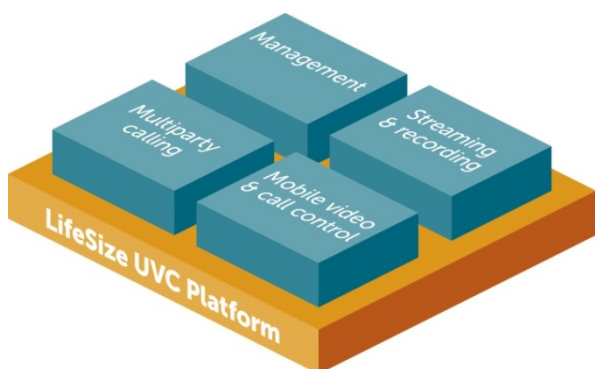
Copyright 2013 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■ライフサイズ、日本市場向けにアプライアンス型「UVC コア アプリケーション バンドル」を発表

ライフサイズ・コミュニケーションズ(Logitech 社事業部門、日本法人:株式会社ロジクール、東京都港区)は、日本市場向けに「UVC コア アプリケーション バンドル」を発表した。

(取材:12月3日)



UVC コア アプリケーション バンドル—4つのアプリケーションに絞ったアプライアンスソリューション(ライフサイズ 資料)

ライフサイズは2012年1月以来「ライフサイズ UVC プラットフォーム」を提供しているが、この UVC プラットフォームは、従来のMCUやストリーミング/レコーディング、ゲートウェイ、ゲートキーパ、運用管理システムなどを VMware や Hyper-V の仮想環境マシン上で集約し、ワンプラットフォームで提供するビデオインフラソリューション。小規模から大規模導入まで柔軟にユーザのニーズに対応できるのが特長だ。

「昨今のインフラが複合的になってきたのを背景に、導入や運用の柔軟性や拡張性を実現する目的からライフサイズ UVC プラットフォームが生まれた経緯がある。スモールスタートから段階を追ってスケールアップできるため、投資を無駄にしない。」

(ライフサイズ)

ライフサイズはこのUVCプラットフォームと2013年春に発表した1080pビデオ会議システムの新製品「LifeSize Iconシリーズ」組み合わせた「Smart Video(スマートビデオ)」をコンセプトとした次世代のビデオ会議ソリューションを展開している。



LifeSize Icon シリーズ(ライフサイズ 資料)

Smart Video の基本的な考えは、スマートフォンのもつ簡単さや柔軟さ、利便性をビデオ会議に取り入れられないかという発想から来ている。ビデオ会議の品質はもとより究極の簡単さを追求したソリューションといえる。

今回、発表された UVC コア アプリケーション バンドルは、ライフサイズ UVC プラットフォームの中でもっともよくつかわれる、「モバイルビデオ&通話制御」「多地点通話」「録画・ストリーミング」「ネットワーク管理」のアプリケーション4つに絞り、プラグ&プレイ対応のアプライアンスの形で提供するソリューション。ポイント to ポイントの通話から多地点へ自動移行する「コールエスカレーション機能」やエンドポイント設定を自動化する「自動プロビジョニング」にも対応している。

	SAMLL (100人程度)	MEDIUM (250人程度)	LARGE (500人程度)	MP-7	MP-20
LifeSize UVC ハードウェアサーバー	1150 1150	1150 3350	1150 1150 3350	1150	3350
モバイルビデオポート (ClearSea)	15	30	60	-	-
多地点通話ポート (Multipoint)	5	10	20	7	20
ビデオ録画 (Video Center)	1	1	1	-	-
ビデオストリーミング (Video Center)	25	50	100	-	-
管理シート (Manager)	5	10	20	-	-

UVC コア アプリケーション バンドルモデル一覧-人数は利用ユーザ企業の規模を想定したもの(ライフサイズ 資料)

モデルは「SMALL(多地点ポート 5、モバイルビデオ 15)」「MEDIUM(多地点ポート 10、モバイルビデオ 30)」「LARGE(多地点ポート 20、モバイルビデオ 60)」の3モデルを提供。また MCU の機能のみに絞ったモデルとして「MP-7(多地点ポート 7)」と「MP-20(多地点ポート 20)」も提供する。(詳細は下記表を参照)

プリインストールされたUVCアプリケーションをインフラとともに顧客に提供する形になる。また設置も簡単で、アプリケーションもインフラも保守サービスにより一括サポートとなっている。

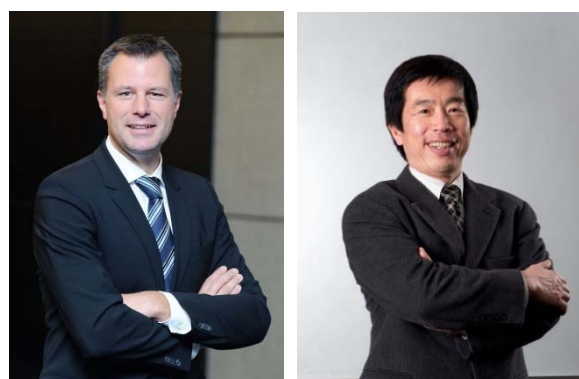
きめ細かい構成などのニーズには仮想環境マシンでのUVCプラットフォームが適しているが、それほど必要のないほとんどのユーザはアプライアンスの方が導入しやすい。そこをターゲットにしたのが UVC コア アプリケーション バンドルになる。

ただ、アプライアンスとは言え、UVC プラットフォームは、ソフトウェアで提供されているため、インストールされているサーバハードウェアを最新のものに更改すると UVC プラットフォームの性能や機能を容易に拡張することも可能だ。その際は既存のライセンスが無償で流用でき、拡張部分のライセンスキーを購入するだけで済む。

今回 UVC コア アプリケーション バンドルの発表に合わせて、Andreas Wienold 氏の国際担当バイスプレジデントへの就任と、関根 徹氏のカンントリーマネージャー(日本)就任の発表もあった。加えて、11月よりVTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)が正式にライフサイズ製品の国内販売代理店(エキスパートパートナー)に

なった。

ライフサイズでは社内機構の編成があり、これまで北米、欧州(EMEA)、アジアと事業を地域ごとに統括してきたが、この度、欧州とアジアをひとつにまとめ国際事業と再編成した。



そのトップに Andreas Wienold 氏(上写真左)が就任したことになる。同氏は欧州担当バイスプレジデントを担当、また関根徹氏(上写真右)はシニアセールスエンジニアを担当していた。

なお、UVC コア アプリケーション バンドルは日本国内ですでに出荷開始している。価格等についてはライフサイズや販売代理店に問い合わせ要。また、来年以降には UVC コア アプリケーション バンドルに冗長化やクラスタリング(負荷分散)などが対応する予定という。

■ソリトンシステムズ、リッチコンテンツを簡単に作成・編集・共有できる新ビデオプラットフォーム「collaaj」の販売を開始

株式会社ソリトンシステムズ(東京都新宿区)は、リッチコンテンツを簡単に作成・編集・共有できるビデオプラットフォーム「collaaj(カラーージュ)」を10月1日より販売開始した。これは、米 Collaaj 社への資本参加によるもの。(10月1日、取材:12月3日)

ビジネスシーンにおいて、メールなど文章で説明すること

は日常茶飯事だが、文字だけによる説明ではこちらの意図が相手に伝わらないことも少なくはない。また操作マニュアルなど文字資料だけでは相手に十分に理解してもらえない恐れもある。しかし、従来の方法では、映像コンテンツを作成するとなるとコストや時間、手間もかかるという難点もある。

collaajは、日常使われているパソコンやタブレットを使い、その画面上で資料・映像・音声などを組み合わせ、リッチコンテンツを簡単に作成(録画)・編集・共有することを可能にするクラウドサービスである。ただし、オンプレミス版も提供する。

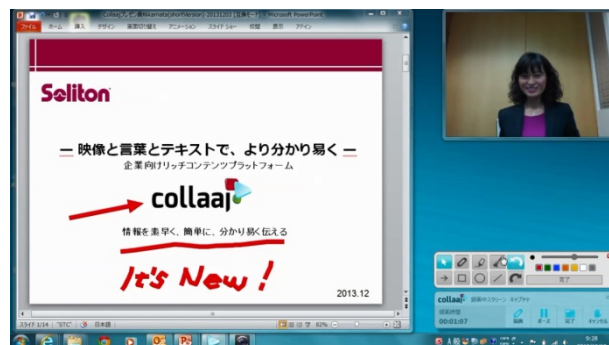
想定する利用用途としては、(1)ソフトウェアのトラブルをPCの画面上で動画録画し、問題点を早期に共有する製品のトラブルシューティング、(2)ヘルプデスクで共通した問い合わせを「ビデオ FAQ」にまとめ顧客が参照できるようにする、(3)トレーニングビデオを作成共有する社内教育、(4)現場のノウハウを共有するための録画共有、(5)より効率的な人材の発掘と採用が行えるビデオレジメ(履歴書)、などcollaajを活用できる用途は広いという。

「Web会議の様子をcollaajで簡単に作成し、それを編集、クラウド上で共有することも可能だ。Web会議のような同期したコミュニケーションとcollaajのような非同期システムを組み合わせることでよりリッチなコラボレーションが行えると考えている。」(ソリトンシステムズ)

パソコン画面上でcollaajを使ってコンテンツを作成する場合、「パソコン画面(スクリーン)と音声」、「音声のみ」、「映像のみ」、「画面・音声・映像」といった4つの方法による録画が可能だ。

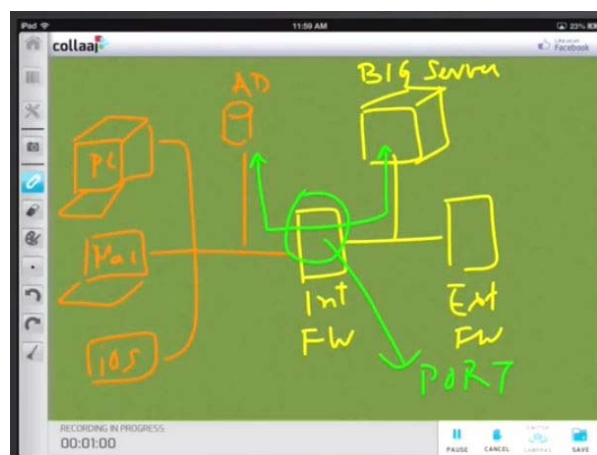


パソコン画面に表示されるcollaajメニュー画面、ボタンをクリックすると録画が行われる。録画範囲は全画面か指定範囲を選べる。
(ソリトンシステムズ 資料)



パソコンでの録画例(ソリトンシステムズ資料)

画面上に、たとえば、パワーポイントなどのドキュメントを表示しながら、WEBカメラでキャプチャーした映像やマイクからの音声を重ね、一連の操作を録画することで、ひとつの動画コンテンツを作成することができる。また録画する画面にドローツールで、簡単な図形・矢印・マーカー等を描きながら録画も行える。ペンツール入力にはワコムのパンタブレットを活用する方法もある。



iPadでのcollaajによる録画中の画面(ソリトンシステムズ 資料)

一方、タブレット(現バージョンではiPadのみ)では、ホワイトボードと内蔵カメラの録画機能を使い、資料・音声・映像を交えたコンテンツを作成できるようになっている。指タッチを特長とした操作性で簡単に作成作業が行える。「自宅でくつろぎながらも作成できる簡単さだ。」(ソリトンシステムズ)

collaajで録画されたコンテンツは目的に応じて簡易な編集が行えるようになっている。編集では、タイトル挿入・トリミング・カット機能を提供している。不要な録画個所の削除や

タイトルを入れたい場合などに便利だ。



ライブラリ(ソリトンシステムズ資料)

コンテンツの保存については、ローカルに保存(ライブラリ)するだけでなく、公開・非

公開・プライベートに分類し Soliton/Collaaj サイトにアップロード(ID とパスワードによるセキュリティ)することもできる。また、アップロードされたコンテンツは、ファイル管理やユーザ管理が行えるようになっている。さらに、collaaj サイトのリンク情報(ビデオを再生するための URL)が提供され、メールや Facebook、Twitter、LinkedIn、Google+など SNS で共有することもできるようになっている。そのほか、オンプレミス版では、マイクロソフトのアクティブディレクトリにも対応する。

なお、collaaj を初めて使用する際には指定のサイトより、アプリケーションをダウンロードし端末にインストールするようになっている。また、collaaj で作成作業が行える端末は Windows PC、Mac PC、iPad(バージョンなどの詳細情報は同社に確認要)が対応しており、現在 Android については視聴のみとなっている。録画したコンテンツにはプレビュー機能もある。

collaaj の価格(税別)について。「Cloud Starter」が約 8,000 円/年(1 ライセンス)、「Business」が約 130,000 円/年(5 ライセンス)。英語バージョンが 10 月 1 日にサービス提供開始となり、11 月 1 日から日本語版も提供されている。

Collaaj社は、2012年12月設立。本社は米国カリフォルニア州サンバーベール。開発はインド。CEOはKiran Kamity氏(RingCube社の元CEO)。企業や教育分野向けに新しいビデオプラットフォームの市場開拓を行っている。日本での窓口は、ソリトンシステムズ New Business 部。

ソリトンシステムズは、今後、セキュリティソリューション、モバイル&クラウドソリューション、映像中継ソリューション等の製品群と連携させ、機能をさらに強化した利用を開拓していく予定だ。

■大塚商会とシスコシステムズ、中堅・中小企業向けユニファイドコミュニケーションソリューションを提供開始

株式会社大塚商会(東京都千代田区)とシスコシステムズ合同会社(東京都港区)は、中堅・中小企業向けに、ユニファイドコミュニケーションソリューション「UC スタータープラン」の提供を開始することを発表。(12月12日)



UC スタータープランイメージ図(大塚商会 資料)

今回の両社の協業によって、シスコシステムズは、小規模から始められるハードウェアおよびソフトウェアを提供し、大塚商会は、シスコ製品に独自のサポートサービス「たよれー」セットにして提供する。

手軽にコミュニケーションの効率化を実現したい、あるいは PBX のリプレースはまだ先だが、コミュニケーション効率化や業務効率化を検討したいという企業を対象としたソリューション。

UC スタータープランには、Web 電話帳 (Phoneappli

Collaboration Directory)、ビジネスチャット(Jabber)、Web会議(WebEx)を基本機能として備えており、電話帳を使ってパソコンまたはスマートフォン/タブレットから在籍確認が行えたり、ワンクリックでインスタントメッセージを行ったり、あるいは、Web会議を開催して資料共有やビデオ会議が可能となっている。

基本機能については、個別に導入した場合、なかなか連携できなかった機能で、本ソリューションでは相互に連携・統合している形になっている。また、機能を利用するにあたり顧客側に設置するハード機器はサーバ1台(「Cisco Unified Communications Manager Business Edition 6000」)のみとなっている。加えて、IPフォンやビデオ会議を導入する際にも相互に連携させることもできるため拡張性も高いため、総合的なUC環境構築を段階的に実現させることも可能だ。

一方、UCに必要なネットワークインフラや回線については、大塚商会の「たよれーる」月額サービスで提供する。ファイアーウォール、無線LAN、リモートアクセスの仕組みといったネットワークインフラに加え、拠点間通信用の回線やモバイル回線、端末を顧客の要望や環境に合わせて提供する。さらに導入後のサポートについてはハードウェアから回線まですべて大塚商会が窓口となる。

販売価格は、100ユーザ利用の場合、300万円～(税別)。1Uのコミュニケーションサーバ上に先述の基本機能を連携させた環境を構築し、保守サービスを提供する。既存の電話設備と併用して使用することが可能となっている。

大塚商会によると初年度受注額3億円を販売目標としている。

大塚商会はUCを専門に扱う部署を7月に新設。今後1年間で選抜した営業にセールストレーニングを行うとともに、UC技術者を育成し、国内最大規模の販売体制・サポート体制を構築していく計画。

この部署を中心に各種のUC製品のプロモーションおよび販売・導入支援・環境構築・保守運用サポートを提供する。今後、大塚商会とシスコシステムズは共同でプロモーション

などを実施していく予定。

なお、大塚商会の担当部署は、UCプロモーション部ユニファイドコミュニケーションプロモーション課となっている。

ビジネス動向-国内

■SOBA プロジェクト、無料 Web 会議サービス「SOBA meeting」の利用ユーザが1万人を突破

株式会社SOBAプロジェクト(京都市下京区)は、同社の無料Web会議サービス「SOBA meeting」(ソーバ・ミーティング)の、延べ利用ユーザ数が1万ユーザを突破したと発表。(12月3日)



SOBA meeting(SOBA プロジェクト 資料)

SOBA meetingは、同社が2013年2月に提供を開始した無料のWeb会議サービス。利用者数はサービス開始以降、緩やかな伸びだったが、同年11月には延べ利用数1万ユーザを突破。12月2日時点で13,000人を超えている。特に11月はひと月で3,000人以上の利用者数が増加している。FacebookやTwitterアカウントですぐに利用できる利

便性もあるため、ミーティングやサークル活動など個人間での利用者数も伸びているという。



SNSでのサインイン(SOBA プロジェクト 資料)

PC へソフトウェア(PC、Mac)をインストールする必要がないクラウドコンピューティング型で、1つの会議への最大参加人数が無制限という特長を持っている。少人数の会議から100人規模のセミナーやイベントにも利用できる。

映像、音声のほか、資料共有(PDFのみ)である「スライド共有」や資料書き込み、また「ホワイトボード共有」もある。アカウント登録はFacebook、Twitterアカウント、もしくはメールアドレスを使用するようになっている。一度登録した会議は終了後も記録が残り、続きを行うこともできるなど会議に便利な機能が揃っている。

■ニューロネット、JETRO 支援で米国シリコンバレーに進出

ニューロネット株式会社(東京都町田市)は、国内10社を選定し実施するJETROのシリコンバレー・ベンチャー・イノベーションプログラムの支援を受け、来春より米国シリコンバレーにおいて事業展開すると発表。(12月9日)

シリコンバレー・ベンチャー・イノベーションプログラムは、「日本再興戦略 JAPAN is BACK」(平成25年6月14日閣議決定)でうたわれた、イノベーション創出、ベンチャー支援、再チャレンジ投資の促進を強力に後押しすることを企画して、JETROが今年度より新規に開始したもの。

第一回対象企業を日本国内から10社選定し、シリコンバレーのエコシステムを活用して、ビジネスモデルの構築支援

(コンサルティング)から、現地顧客の開拓、ビジネスパートナーの発掘、そして資金調達まで、採択企業の海外ビジネス戦略にあわせた個別支援を現地シリコンバレーにおいて行う。

ニューロネットは、このプログラムによって、2014年2月からシリコンバレーにおいて事業展開を行う。「見えるビジュアルコンタクトセンター もしもし Concierge」を中心として事業化を予定している。

今回のシリコンバレー進出にあたり同社によるコメント。「展開速度の速い米国で同時事業展開をすることで、より広範囲に世界規模でのクラウドサービス提供が可能になる。このことが、日本国内での事業展開にもシナジー効果を生み、政府の目指す日本再興戦略 JAPAN is BACKにも貢献してゆくものと考えている。」(ニューロネット)

ニューロネットは、Web 会議「SaasBoard」、見えるビジュアルコンタクトセンター「もしもし Concierge」、月額980円の格安ペーパーレス Web 会議「Papaar」など国内でクラウド型 Web コラボレーションサービス群を提供している。

ビジネス動向-海外

■PGi 社、欧州で SMB 企業向けの遠隔会議サービスを提供している Via-Vox 社を買収

PGi社は、欧州でSMB企業向けの遠隔会議サービスを提供しているVia-Vox社(サービス名称:Powwownow)を5,260万ドルで買収したと発表。(12月3日)

イギリスのSMBユーザの間ではPowwownowサービス(2004年から)が圧倒的に強く、PGi社にとって価値のある買収という。PowwownowユーザがPGi社の「iMeet」や「GlobalMeet」サービスを利用できるようになる。また、一方でPGi社にとっても、この買収によって欧州において第二番目の規模をほこる専門の遠隔会議サービス事業者となり、Powwownowのブランド認知、SMBへのマーケティング、オンラインインフラなどgo to market戦略を推し進めていく上でのノウハウやリソースも得ることになる。

■アルカディン社、ロシアに新オフィス開設

アルカディン社(Arkadin)は、音声・Web 会議サービスへの需要が拡大しているロシアに新オフィスを開設と発表。(12月12日)

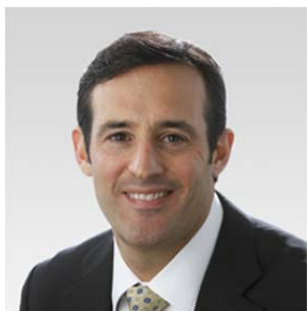
アルカディン社としては、これで世界32か国52のオフィスをもつことになる。ロシア企業において遠隔会議サービスへの理解は浸透しており、それを反映して、ロシアにオフィスを今年開設して以来、ビジネスは好調なスタートを切っているという。

アルカディンロシアのサービスを利用する大企業としては、Colliers Russia 社(不動産サービス)、Rusfinance 銀行(64拠点の事業拠点)、NTT コミュニケーションズ(ロシア国内の日本企業向けサービス)など数多くある。

フロスト&サリバンなどの市場調査によると、遠隔会議サービスへの需要は、西ヨーロッパ経済圏以上に東ヨーロッパおよびロシアでは急速に拡大しており、アルカディンとしては、クラウド型サービスでロシア国内外の需要を取り込みたい考えだ。

人事動向-海外

■ポリコム社、同社プレジデント兼最高経営責任者にピーターリーブ氏を任命



米ポリコム社は、ピーターリーブ(Peter A Leav)氏(写真左)をポリコムのプレジデント兼最高経営責任者(CEO)に任命したと発表。またポリコムの取締役にも任命された。(12月3日)

リーブ氏は12月2日付けで就任し、暫定CEOのケビンパーカー(Kevin Parker)氏の後を引き継ぐ。今後シリコンバレーにある本社を拠点に活動する。パーカー氏は引き続きポリコムの取締役会長を務め、リーブと密接な連携を取り、イノベーションの推進、スムーズな業務進行、収益性を重視した移行計画をすすめていく。

リーブ氏は、ポリコム入社前は、NCR 社において、グローバルセールス部門での Go To Market 事業の指揮、インタラクティブ プリンタ ソリューション事業部の責任者、執行役員の一員としてグローバル戦略の策定と実戦をサポートするなどさまざまな職を務めた。直近では、エグゼクティブ バイスプレジデント兼インダストリーおよびフィールドオペレーション担当プレジデント。

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PAD を活用したクラウド型 Web 会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時:11月以降 2014年3月まで毎月2回開催
会場:シャープ株式会社 東京支社
主催:シャープビジネスソリューション株式会社
詳細・申込:http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice_b.html

■【中小企業様必見!】採算度外視の Salesforce 定着化ツールと Salesforce を活用した斬新な営業&サポート手法のご紹介

日時:12月17日 10:30~12:00 (受付:10:00~)
会場:セールスフォース・ドットコム (東京都千代田区)
共催:株式会社セールスフォース・ドットコム、
ブレインハーツ株式会社、株式会社ブイキューブ
詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/113>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

*2014年イベント情報ページは12月24日頃 CNA レポート・ジャパン ウェブサイトにアップ予定。

CNA Report Japan アーカイブ電子ブック版

>2003年-2012年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/
>2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社
<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

今年も一年、定期レポートを無事に発行させていただきました。ありがとうございました。

個人事業主ですので小さな活動ですが、遠隔会議システムの専門として何かお役にたてることがあればと思っております。

次号は2014年1月15日号からスタートです。来年もよろしくお願い致します。

良い年をお迎えてください。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介